



人権平和資料館だより

2017年（平成29年）12月

HUMAN RIGHTS & PEACE 第251号

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1

TEL 924-6789 FAX 924-6850

世界人権宣言
シンボルマーク

jinken-heiwa-shiryoukan@city.fukuyama.hiroshima.jp

「無言館」所蔵品による 戦没画学生〈戦場からの絵葉書（複製）〉展

期間 2018年1月10日（水）～1月24日（水）

1997年（平成9年）、窪島誠一郎さんにより戦没画学生慰霊美術館「無言館」が長野県上田市に、設立されました。作家であり館主である窪島誠一郎さんは、出征経験を持つ画家の野見山暁治さんとともに全国の戦没画学生の遺族のもとを訪ね、遺作や遺品の収集を続け「無言館」を設立しました。

無言館は、今から約70年前、絵筆を銃に持ち替えねばならぬ日が刻一刻と迫る中、戦争によって志を断たれた戦没画学生の無念を伝え、命の尊さを無言で訴えています。戦没画学生たちは、どれほど絵を描きたかったか、大好きな絵を描きたくてたまらなかったにちがいありません。福山市人権平和資料館では、「無言館」の所蔵作品から約20点の遺作や、家族に宛てた絵葉書を紹介します。彼らは、故郷を愛し、家族を愛し、戦地から戻ったら必ず絵を描くというささやかな希望を持ちながら出征して行った。どれほど生きて還りたかったのでしょうか。

展示品からは、絵をこよなく愛した彼らの声が聞こえてきます。



山之井 龍朗「少女」（無言館蔵）

講演会 「『無言館』のこと

～戦没画学生が伝えるもの～

「まだまだ 描きたい」

「ずっと そばで愛したい」

「もっと 生きたい」

無念の思いを心に秘めて

戦地へ赴いた 画学生たち

信州 上田の塩田平の丘に

たたずむ美術館

それが 無言館

無言で語る 戦没画学生の思い



講師

窪島 誠一郎さん（「信濃デッサン館」「無言館」館主・作家）

日時

1月13日(土)午後1時30分～

会場

福山市人権平和資料館

【 窪島誠一郎・略歴 】

1941(昭和16)年東京生まれ。信濃デッサン館・無言館館主、作家。印刷工、酒場経営などを経て、1964(昭和39)年、東京都世田谷区に小劇場運動の草分けとなる「キッド・アイラック・アート・ホール」を設立。1979(昭和54)年長野県上田市に夭折画家のデッサンを展示する「信濃デッサン館」を、1997(平成9)年、同館隣接地に戦没画学生慰霊美術館「無言館」を設立。第46回産経児童出版文化賞、第14回地方出版文化功労章、第7回信毎賞、第13回NHK地域放送文化賞を受賞。2005(平成17)年、「無言館」の活動で第53回菊池寛賞受賞。